

輸出事業計画

※申請者名：黒瀬水産(株)、品目：養殖ぶり

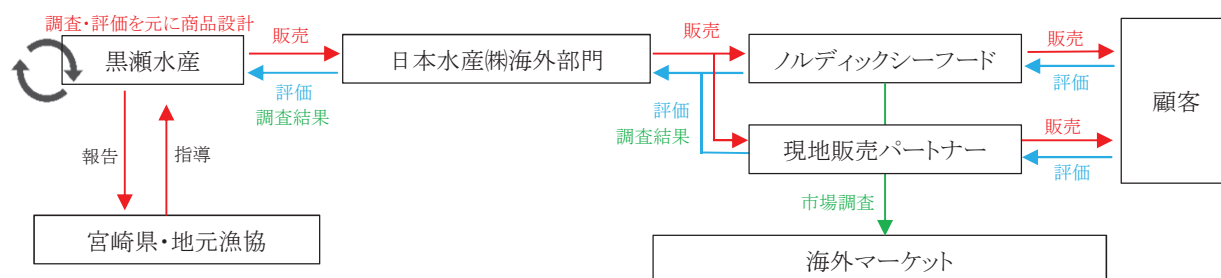
1. 輸出における現状と課題

- 【目的】日本国内での販売価格は、国内全体の生産量により変動が大きく、事業の収支は価格変動の影響を大きく受けている。輸出に特化した新たな取り組みを行い、海外市場で養殖ブリの付加価値を向上させることで輸出比率を高め事業の安定を図る。
- 【現状】当社は日本国内の養殖ブリ生産量の約9%を生産し、そのほとんどを国内市場で販売しており、輸出は全出荷量の5%程度に留まっている。当社の養殖ブリは、生鮮品の航空便輸送が主であり、運賃が高額であるため輸出先での消費方法が限られているため、幅広い客層を確保出来ていない。
- 【課題】空輸による生鮮品輸出のみでは消費量が限られており、輸出量の増加は期待できない。輸出先からは低価格で、汎用性の高い商品を求める声もあるが、国内の生産体制が追い付いていない状況。また、取得済みの国際認証を効果的にアピールできていないことから取組の認知度が広がっていない。

2. 輸出事業計画の取組内容

- ・輸出先各国で市場調査を実施し、ニーズを正確に把握する。調査結果により得られた情報を元に、商品規格の見直しを行い、ニーズに沿った商品の供給を行う。
- ・消費の限定される生鮮商品のみではなく、幅広い客層を獲得できる低価格の商品の供給量増加を図る。
- ・国際認証対象魚の生産量を増加させ、年間を通した認証魚の輸出を行い、輸出量を増加させる。また、国際認証のアピール方法を見直し、自社取組の認知度を上げる。
- ・新型コロナにより乱れた物流網にも対応できる冷却・梱包方法を確立し、鮮度維持の改善を図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 (2019年度)	目標 (2024年度)
輸出金額	398,000千円	567,000千円
輸出重量	405.6t	739.6t
主な輸出先	欧州、東南アジア 等	欧州、東南アジア、中東、北米、オセアニア 等